

知的障害って、どんな障害

知能（知的機能）は一般的に18歳くらいまで発達しますが、知的障害のある方は知能の発達が遅れるために、生活をする上でさまざまな不自由さが生じてきます。

知的障害の原因は400ぐらいあるといわれていますが、原因の分からないものも多くあります。

知的障害のある方の特徴として、複雑なことから理解や判断、こみいった文章や会話の理解が不得手であること、おつりのやりとりのような日常生活の中での計算も苦手であることなどが、挙げられます。

一見しては障害がわかりにくく、少し話をしただけでは障害があることを感じさせない方もいます。しかし、自分のおかれている状況や抽象的な表現を理解することが苦手であったり、未経験の出来事や状況の急な変化への対応が困難という方が多くいます。

特徴の現れ方には個人差が大きく、支援のしかたは一人ひとり異なります。そのことを、まず理解してください。

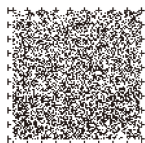


愛の手帳とは

東京都では、各種の福祉の援助を受けやすくするため、昭和42年4月から知的障害のある方に「愛の手帳」を交付しています。平成27年3月現在で、約8万人の方が愛の手帳の交付を受けています。「愛の手帳」では、知的障害の程度を4段階（1度～4度）で判定しています。

愛の手帳

東京都療育手帳



平成28年10月

発行：東京都心身障害者福祉センター
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ
電話 03-3235-2952

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ

東京都
再生紙を使用しています

知的障害の理解のために

知的障害のある方が求める支援

知的障害のある方がどんな支援を求めているのか、意見をまとめました。

支援者の意見や考えを押しつけないでほしい

君は〇〇した方が
いいよ！

私が何をしたいのか、
考えを聞いてほしいな……

本人が何をしたいのか、
確認してほしい

今度の休みはどこに
行きたいですか？

ヘルパーさんと一緒に、
コンサートに行きたいです。

本人の希望を実現できるように支援してほしい

こういう仕事に
就きたいです。

わかりました！
一緒に探しましょう。

人と比較するのはやめてほしい

Aさんは〇〇も△△も
できるしスゴイよね

僕はダメって
言われているみたいだ。

話し方がきつかったり、
命令されるのは怒られている気持ちになるので、
やめてほしい

〇〇しないとダメでしょ！
何やっているのっ

……。

一人前の人間として扱ってほしい

〇〇さん、これからの生活を
一緒に考えていきましょう。

この人は、私を大人として扱ってくれるから話がしやすいな。

話をゆっくり、わかりやすくしてほしい

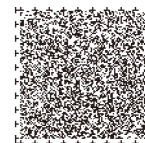
写真があるから、自分で
選べるぞ。

メニューを見て
注文してください。



配慮のポイント

まず本人に話しかけてください。知的障害のある方の中には、理解や判断を助けてくれる支援者と行動している方もいますが、自分のことを決めるのは本人です。本人ができないと決めつけないで、肯定的なかかわり方について考えましょう。



たとえ 例

こんなことに困ることがあります

知的障害のあらわれ方は人によってさまざまです。ここでは、いくつかの例をご紹介します。

コミュニケーションを上手にとること

分かっているように見えても、実際には話の内容を理解していないことが見られます。また、自分の考えや気持ちを的確に表現することに困ることがあります。



自信がないことから、誤解されやすい行動を取ることがあります

日常生活の中で失敗した経験をもっていることも多いので、また失敗するのではないかとびくびくしていたり、自信がなく消極的になりがちです。また、できないことでも「できる」と言ってしまうたり、自分をよく見せようとして背伸びした行動をとることもあります。障害のある方が成功体験を通して自分に自信を持てるように、できるところに目を向けた支援が求められます。



学習に時間がかかります

仕事を覚えても、翌週になると仕事のしかたを忘れていたり、指示した3つの仕事のうち、ひとつしか実行していないことがあります。そのために、支援者からは意欲がなかったり、反抗的に見えてしまうかもしれません。一つひとつ具体的に指示しながら確認し、次の指示をすることが大切となります。また、大切なことはメモにして渡すことも必要です。



状況に応じた行動をすること

突発的な出来事に対して臨機応変に対応したり、状況に応じてTPOをわきまえた行動をすることがあります。例えば、通常使っている交通機関が事故等で使えなくなったときに代替交通機関を利用することがむずかしいことがあります。



人間関係を理解すること

知的障害のある方は相手の気持ちや都合を考えて行動することが苦手です。また、自分の気持ちをうまく表現することができなくて、よい人間関係を築くことが困難となり、誤解されやすいといえます。また、知的障害のある方の中には家族以外の人たちとつきあった経験に乏しく、適切な人間関係のとりかたを学習していないことがあります。



判断したり、見通しをもって考えること

知的障害のある方は抽象的なこと柄について判断したり、見通しをもって考えることが苦手です。例えば、いつも通っている道が工事中で通行止めになっている時に、回り道をしようという考えが浮かばずに、そこに立ちつくすというようなこともあります。



このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての知的障害者にあてはまるわけではありません。中途半端な知識と思いきや、障害のある方に接することは、避けなければならないことです。「その人」への理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。

本リーフレットは障害のある方と、より良いコミュニケーションを築ききっかけとなることを願って作成しました。さらに詳しい内容は「障害のある方への接遇マニュアル」に掲載されています。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/index.html>

